

平成 22 年 10 月 29 日

ヒートポンプ問題連絡会 御中
気候ネットワーク東京事務所 御中

三菱重工業株式会社
冷熱事業本部

ヒートポンプの性能表示についての再質問につきまして

拝啓 爽秋の候、貴会ますますご盛栄のこととお慶び申し上げます。
平素は格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、2010年10月4日付け貴信にてご送付がありました件、弊社回答を下記の通りご連絡申し上げますので、よろしく願い申し上げます。 敬具

記

質問番号1に対するご回答

「各社」には、弊社も含まれているものと認識しております。

質問番号2に対するご回答

インバータエアコンにおいて、2007年度までです。

質問番号3に対するご回答

上記回答の通り、2007年度までありました。

インバータエアコンは、設定温度などに対応して運転状態が変動する機能を有しておりますので、性能試験における計測の際には、インバータエアコンを一定の室温条件下で安定状態となるよう制御して運転する必要があります。2007年度のモデルまでは、かかる一定の室温条件の下で風量が増加する制御仕様となっておりました。

省エネ性能について、エアコンの効率指標の通年エネルギー消費効率（A P F）は、性能試験で得られた能力と消費電力の計測値から算出して J I S で定められた判定基準に沿った評価のもと、カタログ表示をしております。他方、実使用時の効率につきましては、消費者様のご使用になる時間、使用条件等はまちまちであり、一義的に定義してこれをお示しすることは困難でありますので、仮に、前述いたしました仕様において、風量の増加をせずに性能試験を実施したものと仮定いたしますと、通年エネルギー消費効率（A P F）の減少として1～2%程度の影響であると推定されます。

また、騒音試験につきましても、性能試験と同様の試験条件および測定方法に基づいて実施しており、性能試験と騒音試験とでエアコンの運転条件は同一でありますので、ご質問いただいた①と②の数値はどちらもカタログと同一でございます。

質問番号4に対するご回答

弊社といたしましては、JIS規格に基づいた性能試験および騒音試験であったとはいえ、前述のような風量制御による試験計測には課題があったものと真摯に受け止めております。現在では、かかる制御仕様のエアコンについては、2008年度以降のモデルチェンジにより既に生産を終了しており、現在は、販売しておりません。

なお、かかる仕様のエアコンを、販売中止のために回収した事実はございません。

質問番号5に対するご回答

「ある条件」とは、JIS規格(JIS C 9612, JIS B 8615-1)に基づいた試験条件および測定方法における安定状態において、インバータエアコンの運転を一定時間運転した場合をいいます。

今後、弊社といたしましても、JIS規格の改訂に向けた各課題への取り組みおよび検討に積極的に参画し、消費者の皆様にとって、よりわかりやすいエアコンの性能表示への取り組みに努めてまいります。

以上